

令和7年度指導教諭による「授業力アップ講座」⑤⑥

本年度も指導教諭の優れた授業及び解説・講話、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しています。今号では、第5回及び第6回の授業力アップ講座を紹介します。

11月10日(月) 奥州市立東水沢中学校
第2学年 理科:生物のからだのつくりとはたらき

授業者 及川 由美 先生

提案授業

「消化酵素はどのように働くのだろうか。」という学習課題のもとで、テーマ別に分かれて実験した内容について交流する授業でした。

子供たちは、学習班の中で、消化酵素に関する5つの研究テーマを分担して実験しており、実験結果を根拠に仮説を検証していました。そして、プレゼンスライドに整理した内容について、課題、仮説、実験方法、結果、考察、まとめ、振り返りの順で、楽しそうに発表し合っていました。「失敗した実験結果からも、分かることがあるんだよ。」という先生の温かい声かけで、どの生徒も自信をもって根拠に基づく仮説の検証とその発表に取り組むことができました。

研究協議

授業実践においては、単元計画とともに、単元を貫く課題について定期的に生徒と共有することで、生徒が自信をもって探究活動に取り組めることを再確認できました。見方・考え方方が働くような声かけを日常的に積み上げることの重要性についても確認できました。



及川先生の授業から学ぶ 理科の授業のポイント！

- ◆子供が理科を好きになれるような単元計画を、日常生活や社会と結び付けて構想すること。
- ◆記録に残す評価は、観点と評価方法について単元計画作成時に十分吟味し、ねらって取りに行くこと。

参加者の声（一部抜粋）

- ・中学校2年生が、自立して探究的な実験活動に取り組めていることに衝撃を受けた。理科の見方・考え方を日頃から意識した指導の重要性を再確認できた。
- ・学びを日常生活や社会の出来事とつなごうとする意識は、理科教育の本質だと強く感じた。私も、単元構想をする際に、実世界とのつながりをもっと意識したい。

11月17日(月) 奥州市立水沢小学校
第6学年 国語:物語を読んで考えたことを伝え合おう

授業者 佐々木 夕美 先生

提案授業

「カルの心情の変化と、題名『ぼくのブック・ウーマン』に込められた意味を考えよう。」という学習課題のもとで、根拠となる叙述に基づいて自分の考えを学級で交流する授業でした。



子供たちは、主人公カルのブック・ウーマンや本に対する考え方の変化の根拠となる叙述に線を引きながら、自分の考えをノートに整理し、積極的に挙手して発言していました。

また、これまでの学習を踏まえながら、この物語が伝えたかったことは何かについて、友達の意見を聞きながら考えを深め、ノートにまとめていました。授業構想が明確であり、子供が夢中になって思考し続ける授業でした。

研究協議

児童から吸い上げた「初発の感想と、詳しく学習したいこと」に基づいて単元計画を作成することは、児童の主体性を引き出すことが確認できました。言葉の見方・考え方の働きかせ方について、単元構想時に教師が意識して仕掛けを作ることが深い学びにつながることを再確認できました。

佐々木先生の授業から学ぶ 国語科の授業のポイント！

- ◆子供の初発の感想や詳しく学びたいことに基づいて、子供と一緒に単元計画を作成すること。
- ◆視点を与えて振り返りを書かせる習慣づけにより、学びを自覚し、自己調整できるようにすること。

参加者の声（一部抜粋）

- ・主体的に学習に臨む子供たちの姿に感動した。単元のゴールの姿から逆算して、資質・能力を意識した振り返りのさせかたについて、ぜひ真似してみたい。
- ・単元計画自体に子供の学びたい気持ちや想いが詰まっているからこそその主体的な授業だと感じた。子供たちと作る単元計画のよさを、学校でも伝講したい。